

午後 1 時30分 開始

【広報広聴課長】 お待たせをいたしました。定刻の時間となりましたので、ただいまより 9 月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、最初は事業発表についてお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑終了の後、次第の 3 番目のフリーの質疑応答へと進行したく思っております。

なお、終了は14時30分を予定いたしておりますので、協力よろしくお願い申し上げます。それでは、市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 早いもので 8 月も終わろうとしております。9 月の補正予算を含めましたいろんな事業の概要を説明させていただきながら記者会見を行いたいと存じます。よろしくお願ひします。

それでは、まず 9 月の補正予算の概要のほうから説明をさせていただきます。

今回の補正予算につきましては、災害復旧や国庫補助金の内示決定に伴うものなど、6 月補正予算以降、予算措置が必要となったものを計上いたしました。

まず、7 月の豪雨によりまして被害を受けた金ヶ崎公園の災害復旧費や農業用施設、林道、漁港施設の機能回復に係る経費を計上いたしました。

議会費では、議場放送設備等の更新に係る改修工事費を計上いたしました。

総務費では、財務会計システムや地方税ポータルシステムの構築に係る所要額を、民生費では、民間事業者が建設する地域密着型介護施設の整備や開設準備に係る補助金を計上いたしました。

商工費では、NHK大河ドラマ「江」の来年 1 月からの放送開始に向け、滋賀県長浜市など関係団体との連携により、金ヶ崎城跡等へ誘客を行うための経費を計上いたしました。

土木費では、敦賀港利活用を推進するため、定期航路運航事業者へのタグボート使用料の助成費を計上するとともに、駅周辺の賑わい創出に向け、駅前広場の基本計画策定に係る経費を計上いたしました。

特別会計及び企業会計では、農業集落排水事業特別会計と水道事業会計において、舞鶴若狭自動車道建設工事に伴う上下水道管の移設工事費を、病院事業会計では、新型インフルエンザ対策に係る医療器械や新人看護職員の実習用備品等の購入費を計上いたしました。

以上が補正予算の概要でございます。

続きまして、災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定の締結についてであります。

災害が発生した場合に、基本の避難所での生活が困難な高齢者の方や障害のある方々、また妊婦などの災害時要援護者を受け入れるために、民間の社会福祉施設などで災害時に協力をお願いする施設と事前に協定を締結し、民間福祉避難所、これは 2 次的避難所がありますが、そのような役割を持っていただいて指定をし、災害時における受け入れ体勢を整備し、介護を必要とする人たちに安心して避難生活ができるよう整備をするものでございます。そういう皆さん方と協定を結びます。本日の 2 時半からまた行いますので、お時間ありましたらお越しく下さい。

次に、敦賀まつりであります。

これは例年のとおりでありまして、今年はちょっと心配なのは余り天気がよ過ぎて、恐らく 35 度の猛暑日の中でのお祭りになるんじゃないかなと。そういう意味で炎天下で行う行事がたくさんございますので、熱中症等がちょっと心配ではありますが、そのあたりしっかりと周知徹底をしながら熱中症にならないような態勢の中でお祭りを行っていきたい、このように思っております。詳細につきましては、お手元にお配りをしてございます。

次に、東海市からお見えになる友好親善使節団、これの受け入れ事業でございますけれども、9 月 6 日に私のほうに東海の市長が表敬訪問にお見えになります。前日に入りまして、敦賀まつりなども見学していただくというような日程でございますけれども、これもお手元にお配りをしてございます資料のとおりでございます。

私のほうからは以上であります。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いたしました4項目につきまして、幹事社のほうから最初にお伺いしたいと思います。

【記者】 補正の関係で、商工費で金ヶ崎城などへの誘客というふうな経費がありますけれども、これは具体的にはどういったことに使う予定なんですか。

【企画政策部長】 これは長浜と敦賀の広域連携事業の一環として行うものでございまして、2事業を今計画してございます。

1つは、今年の12月25日から30日、これは長浜で開催される関連イベント「江・浅井三姉妹博覧会」、これの先行オープンとセットで、長浜市と敦賀をめぐる新しい観光コースを設定して敦賀に誘客しようというものでございまして。この中でメイン事業として、26日、日曜日に原作の田淵久美子さんと呼んで講演会を実施する計画を立ててございます。

2つ目として、来年の3月19日から27日、敦賀魚商協同組合さんが、かに祭りという事業を行います。これは蓬萊町の魚商協同組合の周辺だと聞いてございます。そのかに祭りとセットでまた新たな観光ルートをつくりまして誘客しようという、この二本立ての事業を今のところ計画してございます。

【記者】 集客の目標人数というのはあるんでしょうか。

【企画政策部長】 これは主に観光バスを誘致しようという計画でございまして、一応目標200台、1台に50人乗るとして1万人、すべて来ると1万人の計画でございまして。

【記者】 2番目の福祉避難所のことについてお伺いしたいんですが、後でお伺いすればいいかもしれないんですが、今回協定を結ぶことによってどれくらいの人数を収容することができるのか。それによって、災害がもし起きたときに、どれくらいのキャパシティがあるのかということをお伺いしたいんですが。

【福祉保健部長】 どのくらい受け入れできるかということですが、全施設で120人前後を受け入れ可能ということではございます。

キャパシティにつきましては、今後、例えば特別養護老人ホームですと個室になっているところにつきましては2人入れていただくとか、そしてまたデイサービスセンターですとあいていますから、そういうところに入れるということで、大体1坪に1名という換算で考えております。

【記者】 場所はあると思うんですけども、面倒見てくださる方とかの確保とかは進んでいるんでしょうか。

【福祉保健部長】 施設におきましては、例えば生活支援員とかケアマネージャーとかもおりますけれども、それとはまた別に市からも要援護者の対策班ということで、例えば保健師とかそういう者もまた状況によっては派遣して対応していくということになります。

【記者】 最後に、もし阪神大震災のような大災害が起きたときに、敦賀市内では何人の要援護者の方が出てくるだろうという想定があるんでしょうか。

【福祉保健部長】 今現在、要援護者につきましては、対象者といたしましては約3,658人ということではございます。ただ、その要援護者におきましても登録ということで、していただいている数が今1,809名ということで、大体50%ぐらいということで、今後、例えば民生委員さんとか区長さんをお願いしまして、その登録数につきましては増やしていこうというふうに計画してございます。

【広報広聴課長】 それでは、各社質問ありましたら発表項目4項目につきまして質問を受けたいと思います。

【記者】 土木費のところでお伺いしたいんですが、駅舎のバリアフリーの補助金で9,300万円、バリアフリー化の中でエスカレーターというのは乗降客の関係でJRは持たない。だから敦賀が出すという話だったと思うんです。そうではなくなったんですか。

【建設部長】 当初、エスカレーターについては、今ほどおっしゃいますバリアフリーの補助の対象にはなりません。したがって、跨線橋のプラス部分とエスカレーターについては市のほうで、設置するという計画でございました。

今回、市が行う予定であったエスカレーターの設置等に係る設計及び既存の待合室の解体工事、そういった物事をJRと協議させていただいて、敦賀駅のバリアフリー工事化工事にあわせてやっというものでして、当初予算でこういった経費を見させていた

だいた部分を減額させていただいて、バリアフリー化補助金の中でJRさんのほうであわせて行っていただくというものでございます。

したがって、エスカレーターは市のほうで経費は持ちますが、施工はJRさんのほうでやっていただくというものでございます。

【記者】 やる主体が変わったというだけで、お金が敦賀市が出す額というのは変わらないわけですね。名目的にJRが施主になるという話なわけですか。

【建設部長】 そのとおりでございます。

【広報広聴課長】 ほかに質問ありますでしょうか。

ないようですので、発表項目につきましての質問はこれまでといたしまして、次に次第の3番目、フリーの質疑応答へ行きたいと思っております。

これも幹事社のほうから最初お願いいたします。

【記者】 市長にお伺いしたいんですけども、来年、統一地方選がございまして、いろいろ市長もお考えのところがあると思うんですけども、現段階で結構なので、そのあたり来年について、お考えがあればお聞かせいただきたいなと思っております。

【市長】 まだ半年以上先の話でありますので、今の市政をしっかりとやっていくというスタンスです。

【記者】 来年、市長選とかいろいろ選挙ありますけれども、出馬とかというのはまだお考えじゃないということでしょうか。

【市長】 今日一日をしっかりと生きていくのが本旨でありまして、半年先のことはまだわからないということ。

【記者】 話がちょっと変わるかもしれないんですけども、新型インフルエンザの設備とかの予算があったと思うんですけども、それとはまた話が別なんですけれども、どこかの自治体でインフルエンザのワクチンの効果が切れていながらも接種してしまったというケースがあったんですけども、敦賀市内の病院のほうでは、切れているとか切れていないとか、そういった把握はされているのでしょうか。

【敦賀病院事務局長】 その期限につきましては、薬剤部のほうで管理をいたしておりますので、そういうことはあり得ないと思っております。

【記者】 いつまでとかというのを把握されているんですか。

【敦賀病院事務局長】 有効期限というのが決まっておりますので、それは薬剤部のほうで管理をいたしておりますので、そういうことはないと思っております。

【記者】 例えば、もうすぐ切れるから新しく用意しなければいけないとか、そういう事態になり得るのかどうかということなんですが。

【敦賀病院事務局長】 ワクチンの供給につきましては県が責任を持って供給をしておりますので、その辺のところは足りなければ、県の保健所のほうへ言わせて供給をしていただく、そういう体制になっております。

【広報広聴課長】 それでは、各社質問ありましたら挙手をお願いします。

【記者】 一般論として、首長の多選批判について、どう思いますか。

【市長】 多選批判ですか。一般論で。そういう人もいらっしゃるでしょうけれども、今は安定を求める時代ですから、多選とか長くやって安定したまちづくりを行うのも一つだという意見もありますので、そういう意見はあるということは承知している程度です。

【記者】 前回出られたときがちょうどいわゆる知事が全国でいろんな汚職とかで捕まったりとかした時期と重なっていて、必ずしも長いから悪いわけでもないということを市長はおっしゃっていたと思うんですが、基本的にはそういうお考えですかね。

【市長】 そのとおりです。

【記者】 あともう1点、新幹線がいよいよ厳しくなってきたのかなというのと、あとは国土交通省が言っていることは福井県内にはかなり痛いところを突いてきているという気はするんですけども、改めてどう思いますか。

【市長】 何度も言っていますが、新幹線というのはもちろん地域住民の思い、または地域の発展にも寄与することは間違いないものだと思うんですが、国家戦略として太平洋側、もう四十数年を過ぎた今は東海道、そして西日本とつながっている新幹線ができていますが、要するに代替ルートとしての北陸新幹線という位置づけを国家がしっかり持

って、逆に国がルートをしっかり決めて、そして地方に協力をしてくれと、新幹線をぜひ国家のためにつくりたいので協力をしてほしいという要請に行くのが当然であって、ルートを地元が決めないと言々なんていうことは私はもってのほかだと思っていますので、また国土交通省へ行ったときには、皆さんの考え方は間違っていますよということを行きたいと思っています。

【記者】 全国的に100歳以上の高齢者の方の生存確認云々かんぬんございます。敦賀市でもいち早く100歳以上の方の生存確認をされたということをお知らせいただいておりますけれども、その後も今度は戸籍と住民票とのギャップとか、問題が別の方向に波及して、行政事務のあり方などが問われているような状況かと思うんです。

敦賀市でも200歳ぐらいの方がおられると、また違った意味で話題にはなるんですけども、その辺の調査の状況であることと、現状を教えてくださいませんか。

それから加えて、どうしてこういうことが起きるんだろうかという敦賀市の見解というか、お心構えというか、そういうものもあわせて聞かせていただけるとありがたいです。

【市長】 100歳以上につきましては、私どもは調査をさせていただいて、10名の皆さん方がいらっしゃるんですけども、それぞれ職員が訪問して、皆さん全員いらっしゃるということで確認をいたしました。

ただ、やはり100歳に限らず、65歳から一応高齢者になるわけですけども、そうなりますと大体1万5,000人ぐらい敦賀でいらっしゃいます。そこで、まず第2段階として、75歳以上の高齢者の方々、約8,000人いらっしゃいますけれども、その皆さん方に範囲を拡大して所在確認をこれから行おうというふうに思っております。その方法としては、後期高齢者の医療保険、また介護保険の給付実績などで確認をしていきますとかなり絞られますので、そういうものを通じて、またお祝い金をお配りしたりしている状況であります。民生委員さんにひとり暮らしの皆さん方の安否確認もやっていただいていますし、また区長さんからの聞き取りなども参考にしながら、しっかりとした確認をしたいというふうに思っております。それでもなかなか所在がわからないという方もいらっしゃると思いますので、最終的には職員が直接訪問して確認をしていきたいと思っております。

それで、これから個人情報の取り扱いのこともございますし、また職権削除ということも考えられるわけでありますので、具体的な方法、対策につきましては、9月2日に関係の部課長が集まりまして対策検討会を開催していきたい、このように思っております。

それと、また後ほど市民生活部長からお話があると思いますけれども、この原因というのは、特に高齢者の180歳とかいうのはやっぱり当時の戸籍制度が変わったときの届けがない。そのまま抹消されないままずっといて、よく安政5年生まれの人とかいうのは出ていますけれども、じゃそれで日本人の平均寿命が高いのか。それは入っていないそうなんですけれども、実際としては生きていたような形になっている人はいるみたいです。それはどうしても制度が変わったときのひずみというものがやはり出ているので、全国で今生きていたら180歳の人、150歳の人というのが出てきているような状況であります。

また、部長のほうから細かく答弁をいたさせます。

【市民生活部長】 今、市長申し上げましたのは2点ありまして、住民基本台帳のある方が敦賀市に100歳以上おられる方が10名。正確には11名になるんですけども。戸籍が敦賀市にあって住民基本台帳がないという方が物すごくたくさんおられます。そういう方につきましては100歳以上が330名ということになっておりまして。これは状況的には明治4年に戸籍法ができて、その当時は戸籍、本籍イコール住民票だということですから来ていたんですが、明治に入りまして、だんだん人が国内を移動するように、また海外へも移動するようになってきた。そういうことで大正3年に寄留法という法律ができて、今の戸籍の附票の前段の制度というふうに思ってもらえれば結構なんです。大体その人が例えば3カ月以上敦賀市から離れる場合は届け出をしないという制度があったわけなんですけれども、大正3年に。なかなか届け出がなされないでどこかへ行かれた方。それから、これにつきましては日本国内と樺太に限定されていたという状況がありまして、中国とかその他の海外へ行った場合は届け出をしなくてもいいという制度だったみたいです。そういったことで、敦賀は港があったものですから中国大陆に渡った方もたくさんお

られるんじゃないかなと推測がされます。

そして、一人暮らしで戸籍を持っていた方が、例えば第一次世界大戦、第二次世界大戦ということがありましたから、もしも空襲なんかで亡くなっていると家族が届け出をしないでそのまま放置されたという例が考えられるんじゃないかなということで、今敦賀の最高齢が152歳、安政5年、安政の大獄の時代に生まれた方が最高齢で152歳というのがおりまして、全体的には戸籍があって100歳以上が生存が330名、そのうち敦賀に住民登録のある方が10名、他市町村にあるという記録が残っている方は5名、それ以外は全部住民基本台帳に登録がないということで、結局、どこにこの人たちがいるのかということが追跡が全然できない状況だということになっております。

【記者】 市長にお伺いしたいんですけども、26日のもんじゅのトラブルについて改めてどう思われているかということをお伺いできますか。

【市長】 原子炉内で、特に作業中に起きたトラブルでありますので、極めて遺憾であるというふうに思っております。

今、原因究明ということで、昨日にも発表がされまして、大体わかってきたわけでありましてけれども、ただやはり心配なのは、もっとしっかりあれだけ重いものが2メートルも落ちたものですから、あれを引き抜いて本当に欠けた部分がないのか、そういうやつを詳しくこれからやると思っていますから、しっかりと安全確認をやっていただきたい、このように思います。

確かにこういうトラブルはどう起こったのかということで、何か90度曲がっていた。あれが曲がらなかつたら落ちることはなかったんでしょうけれども、曲がったということでもありますので、なぜそれが曲がったのかというそういうものの原因究明、こういうものをしっかり行っていただきたいと思っておりますし、特に私はいつも言っておりますけれども、安全、安心にはそんな工程にとられる必要はありません。しっかりとその部分の原因究明をやっていくことが一番大事だというふうに思っています。

【記者】 原因究明がなされるまでは40%に行かせないということもあり得るということですか。

【市長】 恐らく原因がこのままわからずに次の段階進むということはありませんから、当然今回のトラブルの原因をしっかりと究明してから次のステップに行くものだと思います。

【記者】 あと原子炉容器の影響というのは、やっぱり気になるころではありますかね。

【市長】 先ほど言いましたけれども、3トンのものが2メートルですから、相当な衝撃もあったと想像されますので、そのあたりをしっかりと本当に大丈夫だったのかということも早く調べてほしいなと思っております。恐らく原子炉容器ですので、そんなぐらいでびくつくものであっては逆にいけないなとも思っておりますけれども、しかしやはりその辺を確認することは大事だと思います。

【広報広聴課長】 ほかに質問ありますでしょうか。

ないようですので、これにて9月の定例記者会見を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございます。

敦賀まつりも、暑いですが、熱中症にならないように取材してください。

午後1時56分 終了